

河川モニタリング調査実施計画（平成 21 年度計画）（案）

かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画

11 水環境モニタリング調査の実施

② 河川のモニタリング調査

河川の流域における動植物等調査	相模川、酒匂川水系において、動物、鳥類、水生植物等を調査する。
河川水質の多様な指標による評価	県民参加のもとで利用目的等に応じた多様な指標を選定し調査する。

1 調査の目的

河川水質のモニタリングについては、従来から調査されているBOD（生物化学的酸素要求量）等の水質環境基準項目だけでは県民に分かりにくい等の課題があるため、動植物やその他の多様な指標をもとに河川を調査するとともに、森林の管理状況などと密接に関連する河川水の窒素、SS（浮遊物質）などの水質項目についても調査し、水源環境保全・再生に係る施策の評価や将来の施策展開の方向性について検討の基礎資料とする。また、これらの収集した時系列データを解析することにより経年変化を把握する。

本調査は、マクロな視点で河川環境を把握していくことにあり、個々の河川対策の実施効果を検証するための調査については、それぞれの事業等で実施するものとする。

2 調査対象河川

酒匂川

3 調査の概要

(1) 河川の流域における動植物等調査

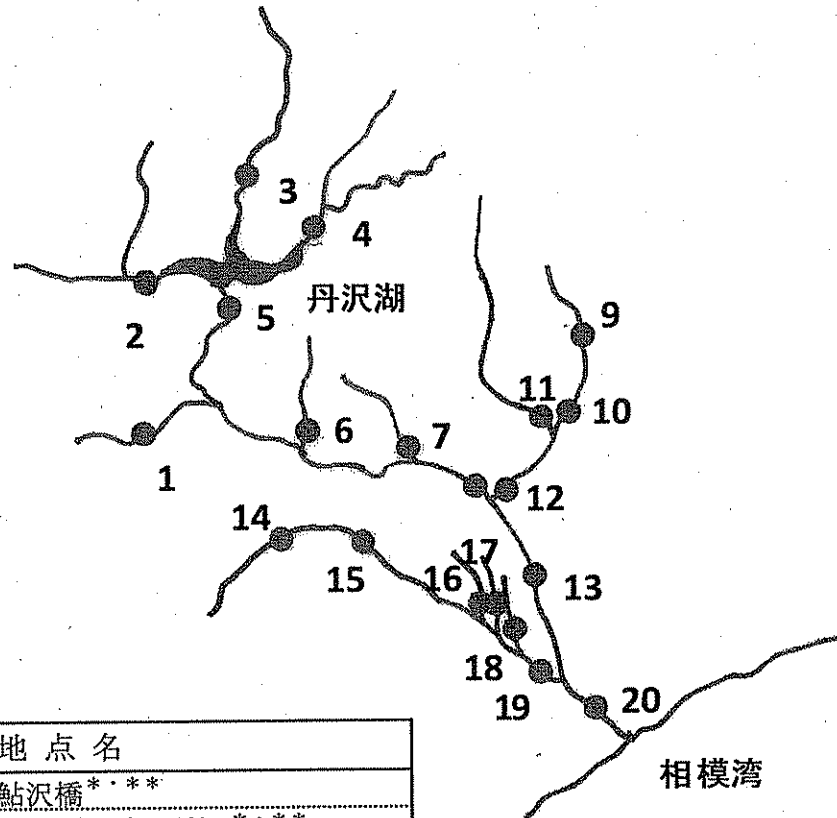
ア 基本的な考え方

- 専門業者（一部専門家）への委託により、水生生物等動植物や、窒素、SSなどの水質項目について定点観測する。
- 具体的には、平成21年度に酒匂川の現地調査を実施して現状の把握と解析を行い、以後5年に1回程度の間隔で現地調査を行い、その経年変化を把握することを想定して取り組む。
- また、過去に実施された調査のデータベース化をはかり、過去の状況からの変化についても把握・解析を行うこととし、一部については19年度に完了している。

イ 平成21年度調査内容

(ア) 調査地点

酒匂川40地点（本川、支川、溪流を含む） 図1（底生動物調査地点のみ）



NO.	河川名	地点名
1	鮎沢川	鮎沢橋***
2	世附川	浅瀬(湖流入前)***
3	河内川	中川温泉下(湖流入前)***
4	玄倉川	玄倉水位観測所***
5	河内川	神縄**
6	皆瀬川	樋口橋**
7	尺里川	県立山北高校前**
8	酒匂川	十文字橋***
9	四十八瀬川	才戸橋**
10		河内橋**
11	中津川	湯ノ沢橋**
12	川音川	文久橋***
13	酒匂川	報徳橋***
14	狩川	関下橋**
15		上河原橋**
16	洞川	下河原橋**
17	要定川	境橋**
18	仙了川	仙了橋**
19	狩川	狩川橋***
20	酒匂川	飯泉取水堰下**

*印：公共用水域水質測定計画調査地点(8地点)

**印：底生動物調査地点(神奈川県環境科学センター, 2005)(20地点)

図1 酒匂川水系の調査地点図(サンショウウオ類調査は別に設ける)

(イ) 調査回数及び調査時期

動植物等の調査は、年2回（夏及び冬）実施する（両生類は年1回）。
水質項目については、年12回（毎月1回）分析する。

(ウ) 調査対象動植物等

調査対象	調査手法
○ 水生生物（水質等の水環境評価に係る動植物） 底生動物、魚類、両生類（カエル類及びサンショウウオ類）、付着藻類、水生植物	定量調査、 定性調査など
○ 陸域の生物 （水生生物の生息等に深く関わる河川環境の評価に係る動植物） ・鳥類（カワガラス、ヤマセミ、カワセミ、セキレイ類、カワウなど 約10種類を重点） ・河原植物（水生植物と同時に調査する）	分布調査（定 性調査）
○ 生物の生息環境 ワンドや河床構造等の、生物の生息にとって良好な環境の存在を調 査する（底生動物調査の中で実施）	分布調査

(エ) 調査対象水質項目

pH, BOD, COD, SS, DO, 窒素、リン、TOC、クロロフィル量。

(オ) 調査方法

平成18年度版河川水辺の国勢調査マニュアル及び水質測定計画に基づく方法に準ずる。
県内の専門家への依頼を含め、専門業者に委託して実施する。

ウ 調査結果の解析等

動植物調査については調査実施年度に分布データを中心にまとめるとともに、翌年度に過去からの動植物の生息状況等との比較解析を行う。このため、過去に実施された調査の結果について、平成19年度からデータベース化を行っている。

水質については、翌年度に公共用水域の水質調査結果と各地点の調査結果をもとに比較解析を行う。

エ 補完調査・全体のとりまとめ解析

平成20年度の相模川、21年度の酒匂川における調査を踏まえ、平成22年度に補完調査を行う。

これらの調査結果をもとに、平成21年度から全体の取りまとめ解析を始める。

オ 全体スケジュール

取組内容		H19	H20	H21	H22	H23
相模川	・調査計画の策定	○	○			
	・過去の調査のデータベース化					
	・現地調査（水質、動植物）		○			
酒匂川	・県民参加型調査		○	○	○	○
	・調査計画の策定	○	○	○		
	・過去の調査のデータベース化					
	・現地調査（水質、動植物）			○		
全体	・県民参加型調査			○	○	○
	・補完調査				○	○
	・全体とりまとめ解析			○	○	
	・次期5か年計画の検討					○

(2) 河川水質の多様な指標による評価（県民参加型調査）

ア 基本的な考え方

- 調査は、水環境に係る多様な指標をもとに、県民参加により毎年度河川を調査する。
- 精度を確保するため専門家にアドバイザーとして、研修、指導等を依頼する。
- 県民が実施した調査によって得られたデータを解析し評価するとともに、5年に1回実施する「河川の流域における動植物等調査」を補完するものとして活用する。全体の調整ととりまとめは専門業者に委託する。

イ 平成 21 年度調査内容

(ア) 調査地点

酒匂川 40 地点程度(本川、支川、溪流を含む。)

調査地点は、専門家による定点を含め、多くの県民の身近に存在する中下流部やその支川も重点とする。

(イ) 調査回数及び調査時期

年 2 回程度を目処に随時行う。

(ウ) 調査対象動植物等

調査対象
○ 水生生物 底生動物、魚類、水生植物
○ 水質及びその他の指標 水温、COD (パックテスト)、導電率、pH ゴミの量、透視度、川底の感触、におい

(エ) 調査方法

動植物調査については定性調査とし、具体的な調査方法は調査マニュアル(平成 19 年度作成)に準じて行う。

水質は、簡易な計測器及びパックテストを用いる。

その他の指標については、国土交通省の「今後の河川水質管理の指標項目(案)」に従う。

なお、調査に必要な機材については貸与する。

ウ 県民参加について

県民から参加者を募って調査を実施するものとする。なお、調査に当たっては、調査の精度を確保するため、専門家による事前研修とともに、調査方法、生物の同定など調査中の指導を行う。

なお、公募以外に流域の市民団体等にも働きかけ、調査を実施するものとする。

エ 調査結果の取りまとめ及び結果報告会の開催

調査結果については、まとめの結果報告会を開催する。

オ 全体スケジュール（相模川水系も含む）

取組内容		H19	H20	H21	H22	H23
準備	<ul style="list-style-type: none"> ・調査計画の策定 ・県民参加の仕組み作 ・調査マニュアルの作成 	○				
県民調査	<ul style="list-style-type: none"> ・調査の実施 ・現地調査 ・とりまとめ解析 		○	○	○	○

平成 20 年度県民参加型調査進捗状況（11 月 5 日時点）

（1）河川水質の多様な指標による評価（県民参加型調査）

1) 応募人数

4 団体及び個人で合計 35 人。

2) 現地研修会

ア 第 1 回

- ・日時：9 月 7 日（日） 9 時 30 分～15 時
- ・場所：中津川・八菅橋
- ・参加者：あいかわ自然ネットワーク及びさがみはら水生動物研究会で 4 人。
- ・研修内容：底生動物、魚類、植物。特に植物標本の作成方法。

イ 第 2 回

- ・日時：9 月 10 日（水） 10 時～12 時 30 分
- ・場所：永池川・海老名市役所付近
- ・参加者：えびな環境市民会議及び個人参加者で 11 人。
- ・研修内容：底生動物、魚類、植物。

ウ 第 3 回

- ・日時：11 月 3 日（月） 9 時 30 分～12 時 30 分
- ・場所：串川・河原橋
- ・参加者：さがみはら水生動物研究会及び個人参加者で 11 人。
- ・研修内容：底生動物、魚類、植物。特に標本の作成方法。

その他に第 4 回として、11 月 16 日（日）に小鮎川で研修の予定。



環境科学センター > 取組分野(水源環境) > 県民参加型生物調査

水源河川 県民参加型生物調査

神奈川県では、かながわ水源環境保全・再生施策大綱及び神奈川水源環境保全・再生実行5か年計画に基づき、さまざまな施策を展開しています(かながわの水源環境の保全・再生をめざして)。

環境科学センターではこれらの取り組みの効果を検証するため、水質や生物のモニタリング調査を実施していますが、それと同時に、水源河川的环境に関心のある県民の皆様と協働で、生物調査を行います。

当センターで行うモニタリング調査は、相模川と酒匂川の定点を5年ごとに行うものですが、多くの県民の皆様の日を通してより身近な地点や異なる時期の調査などを行うことにより、定期的な定点モニタリングではとらえきれない貴重なデータが得られると考えています。

平成20年度はすでに相模川水系の調査員が決まり、調査も始まっていますが、平成21年度からは酒匂川水系も加え、調査を継続します。このページでは、調査員用の情報のほか調査員の募集情報などお知らせします。

■ [平成20年度の調査の内容はこちら](#)

■ [県民調査員用資料はこちら](#)

■ [県民調査の様子などはこちら](#)

■ [出現生物の情報はこちら](#)

■ 調査員の募集

平成20年度の募集はすでに終了しました。

平成21年度の募集は、決まり次第このページにてお知らせいたします。

調査員は、神奈川県内に在住又は在勤の18才以上の方を50人程度予定しています。

問い合わせ先

神奈川県環境科学センター

調査研究部 水源環境担当 齋藤、野崎

TEL 0463-24-3311 内線372



環境科学センター > 取組分野(水源環境) > 県民参加型生物調査 > 調査の内容

水源河川 県民参加型生物調査

■ 調査の内容

1 調査内容

相模川水系における生物(底生動物、魚類、植物)の現地調査を行い、調査結果の報告をしていただきます。調査に当たっては、希望によって専門家による講習会を開催するとともに、必要に応じて個別に調査の相談に応じます。また、顕微鏡等の使用ができるボランティアルーム(当センター1階)の利用や、必要な調査機材の貸出しも受けられます。

なお、調査時期、場所、回数などについて特にノルマはありませんので、できる範囲で実施していただきます。

本調査のアドバイザーとして各分類群2名の専門家のご協力を得ています。

2 調査に関する費用

現地調査、講習会等へ参加する際の交通費等は自己負担となります。なお、現地調査に際しては、ボランティア保険に加入していただきますが、保険料は当センターで負担します。

3 調査結果の取り扱い

調査結果は、実行5か年計画の評価や広報活動などに使用します。また、広報する際に、ご協力をお願いする場合がありますのでご了承ください。

■ アドバイザーの紹介

本調査を進める上で必要な指導、相談、生物の同定などを行っていただくために、植物、魚類、底生動物の専門家各2名にアドバイザーをお願いしています。

アドバイザー氏名	所属	担当分野
秋山 幸也	相模原市立博物館	植物
内山 寛	日本大学生物資源科学部	植物
金田 彰二	日本工学院八王子専門学校	底生動物
金子 裕明	NPO法人神奈川ウォーター・ネットワーク	魚類
勝呂 尚之	神奈川県水産技術センター内水面試験場	魚類
守屋 博文	相模原市立博物館	底生動物

このページに関するお問い合わせは、環境科学センター(調査研究部 水源環境担当)までお願いします。



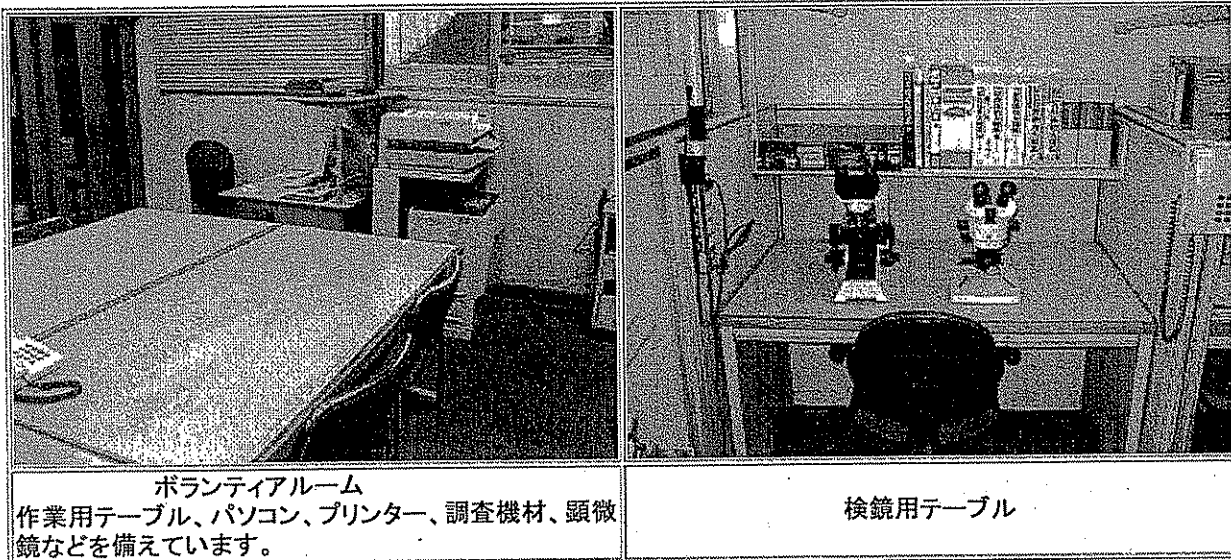
環境科学センター > 取組分野(水源環境) > 県民参加型生物調査 > 調査員用資料

水源河川 県民参加型生物調査 ■ 調査員用資料

調査の際に必要な資料などを掲載します。

- 「安全に調査を行うために」
調査の前に、まずこちらをお読みください (PDF 270KB)。
- 「調査シート」
調査結果を報告していただくための用紙です (Excell 97-2003ブック 241KB)
- 「生物の調べ方」
主な生物の区別の仕方を掲載します。
 - 「水草の調べ方」 (PDF 641KB)
 - 「魚の調べ方」 (PDF 1,038KB)
 - 「水生昆虫の調べ方」 (PDF 1,025KB)

県民調査用ボランティアルーム(当センター1階)では、各種の生物図鑑をご利用できるほか、標本作製などの作業もできます。



このページに関するお問い合わせは、環境科学センター(調査研究部 水源環境担当)までお願いします。

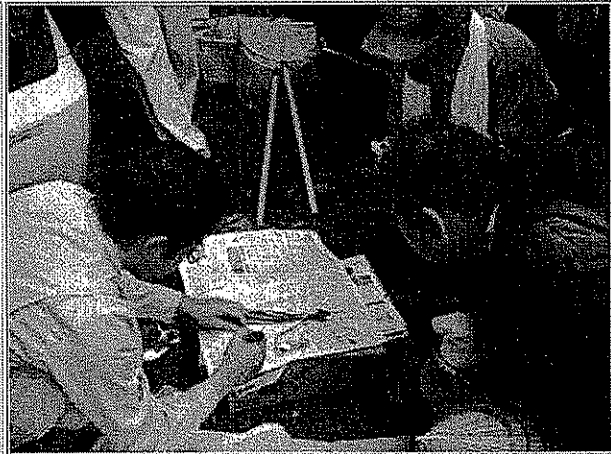
環境科学センター > 取組分野(水源環境) > 県民参加型生物調査 > 調査の様子

水源河川 県民参加型生物調査 ■ 調査の様子

2008年9月7日:愛川町八菅山(尾山耕地)で調査を兼ねた研修を行いました。



魚や底生動物の調査



植物標本の作り方

2008年9月10日:海老名市中央(永池川上流)で調査を兼ねた研修を行いました。



水草の調査



魚や底生動物の調査

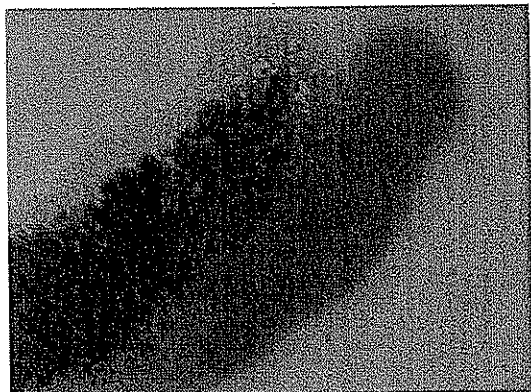
このページに関するお問い合わせは、環境科学センター(調査研究部 水源環境担当)までお願いします。



環境科学センター > 取組分野(水源環境) > 県民参加型生物調査 > 出現生物

水源河川 県民参加型生物調査 ■ 出現生物

ここでは、調査で見つかった生物などを紹介していきます。



アメリカツノウズムシ

採集日:2008年9月10日

採集場所:永池川上流(海老名市)

採集者:えびな環境市民会議自然部会会員ほか。

研修会を兼ねた現地調査で在来のナミウズムシと雰囲気の異なるプラナリアが採集されました。持ち帰り調べたところ、外来種の本種でした。県内だけでなく、各地で増えています。

このページに関するお問い合わせは、環境科学センター(調査研究部 水源環境担当)までお願いします。